

建築士 やまなし

No.77

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



■令和元年度 山梨県建築文化賞受賞作品

- ① 峰々を見渡す家 (住宅) (建築文化賞)
- ② ふふ河口湖 (一般) (建築文化賞)
- ③ 株式会社正直堂ワークスタジオアール (一般) (建築文化奨励賞)
- ④ 甲府市武田氏館跡歴史館 (旧堀田家住宅) (公共) (建築文化奨励賞)
- ⑤ グレーブ・ゲイブルズ (良好なまちなみ景観) (建築文化奨励賞)
- ⑥ 山中湖村平野ゆいの広場ひらり (ロータリー工区・南工区) (良好なまちなみ景観) (建築文化奨励賞)

●目次●

年頭のごあいさつ 一般社団法人 山梨県建築士会 会長 雨宮健一	2
県政功績者表彰を受賞して 進藤哲雄	3
国土交通大臣表彰を授与されて 都留支部 渡辺 譲	4
日本建築士会連合会長表彰を授与されて 甲府支部 松木 謙・甲府支部 望月雄二・市川支部 斉藤一恵	4・5
第54回スポーツ大会に寄せて 塩山支部長 雨宮眞司	6
女性部会の活動報告 女性部会 河西眞理子	6
第3回山梨県建築士の集い 実行委員会 実行委員長 長坂 治	7
青年部会の活動報告 青年部会 遠藤恭範	7
建物探訪『ブラ散歩 @ 韮崎』和田之男・丹沢浩己・名取あき子・長坂 治・中澤幸子	8・9
県からのお知らせ 令和元年度 山梨県建築文化賞 山梨県建築文化賞推進協議会	10
事務局よりお知らせ 会員の動静	11

年頭のごあいさつ

一般社団法人 山梨県建築士会

会長 雨宮 健一



令和の初春あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、年頭から触れたくない話題ですが、我が国は少子高齢化の中で、生産年齢人口が急激に減少しています。私達が携わる建設業も建設工事の品質を確保しつつ、持続的に社会的役割を果たしていくためには、建設業における担い手を確保・育成していかなければなりません。また建設技能労働者と同様に建設技術者についても、少子化、人口減少による影響以上に、就職者が減少し離職率も他産業に比較して高いことは総務省などでも公表されています。建設業は、他の産業と異なり、一品受注生産であり、現地屋外生産などの特性を有しております。施工管理に従事する建設技術者は、それぞれの現場ごとに異なる工事目的物を、建設技能労働者を指揮、監督しながら所定の管理基準に従って完成する能力が求められます。これまで多くの工事目的物とその技術力に支えられ、社会基盤として、また建築物として社会の重要な役割を担ってきました。その優れた建設技術者の人材確保の為、建築士法の一部が改正され令和2年3月1日から施行されます。改正のポイントとは、以下のようになります。

1、大学の建築学科で指定科目を修めて卒業後、直ちに一級建築士を受験できます。

一級建築士の受験資格を定める法14条一号から実務経験にかかる記述が削除され、令和2年3月の大学卒業者は、同年7月の一級建築士試験を受験できるようになりました。

2、工業高校等で指定科目を修めて卒業後、直ちに二級建築士を受験できます。

法15条一号から実務経験にかかる記述が削除されたため、工業高校を3月に卒業した後、同年の7月の二級建築士試験を受験できるようになりました。一級・二級ともに、合格のためには、在学中

から受験用の学習を始める必要があります。3、二級建築士は、直ちに一級建築士を受験できるようになります。

法14条二号で、二級建築士についても実務経験にかかる記述が削除され、二級建築士は、実務経験がなくても一級建築士の試験を受験できます。例えば、工業高校を出てすぐに二級建築士試験に合格した後、実務経験2年で二級建築士免許を取得すれば、最短20歳で一級建築士試験を受験でき、その後実務経験4年で一級建築士の免許登録が可能です。4、従来、受験資格の要件とされていた実務経験は、免許の登録要件となります。

改正前に受験資格として扱われていた実務経験は、免許を受けるための登録要件と代わりました。また、試験合格の前後の実務経験を通算することも認められます。

5、設計製図試験の受験タイミングが緩和されました。

従来、一級建築士の学科試験に合格した方は、その年の設計製図試験のほか、翌年、翌々年の設計製図試験について学科試験が免除されていました。令和2年からの学科試験に合格した方は、その年を含めて、5年以内に実施される設計製図試験のうち、3回を任意に選択して学科免除で受験することができます。たとえば、令和2年の学科試験に合格した場合、令和3年、5年、6年の設計製図試験について学科免除で受験することができます。以上、建築士受験が受けやすく改正されますが受験内容は、年ごとに難易度が増しているように感じます。連合会でも建築士の環境を整えるべく他の建築関連団体と会議を重ねています。少しでも多くの方が建築士資格を取得します事を願います。

最後になりましたが、建築士会の皆様にとってより良い一年でありますように、更なる皆様のご支援・ご協力を御願い申し上げ年頭の御挨拶とさせていただきます。

県政功績者表彰を受賞して

進 藤 哲 雄



昨年、建築士会からのご推薦により、山梨県より県政功績者表彰をいただきました。

これはひとえに建築士会の仲間や事務局の方々のおかげだと感謝しております。

考えてみれば私の地域とのかかわりの原点は建築士会青年部でした。まちづくり活動の提案や報告書作り、関東ブロック大会や全国大会を通じて多くの友達を得て色々な事を経験させていただきました。士会連合会主催の海外研修旅行にも何回か参加して、そしてそれがきっかけで海外旅行が趣味(ちゃんとした研修です)となり山梨の青年部でもニューヨーク旅行なども企画いたしました。

まちづくりに興味を持ち地域に対して建築士として何か提案したいと思うようになったのもこの頃からです。多くの先輩たちが築き上げた地域が、高度成長やバブルによって大きく変わっていった時代でした。朝日町のまちづくり提案が初めて、県と市町村からの委託を受けて「景観ガイドプラン」を石和町を筆頭に何か所かガイドプランを作らせていただきました。遊亀公園清水材木店の取り壊し予定の建物を利用した環境芸術ワークショップも印象に残っている活動の一つです。

何も判らずに始めた活動でしたが何故か大掛かりな開発や都市計画でなく、ひらがなの「まちづくり」という言葉に惹かれて身近なもの、自分達にも出来るものだと思い、行政の方々とも協力しながら色々な審議会や研究会に出させていただいたり、士会連合会のまちづくり委員などの経験も積ませていただきました。今考えてみてもそれらの活動が楽しく自分にとって有意義だったと思えるのはそれらを支えてくれた先輩や仲間、そして後輩たちのおかげだと感謝しております。

そして10年前から建築士会、設計協会、建築

士事務所協会、建築学会による建築設計4会合同の2040プロジェクトを始めさせていただきました。

東京の一極集中が進む中、リニア新幹線、中部横断自動車道など大きな変化に対して「山梨はどのようにしたら良いのか」という課題に対してそこに住む、建築設計に関わる人間が泥臭くても良いので、地域の目線で継続的に研究し、提案し、そして活動することを目的としたプロジェクトです。

山梨県には建築系の大学研究室が無いので地域のまちづくり、活性化、景観対策などに継続的に研究、提案発表をする機関がありません。東京のコンサルタントによる総合計画等の報告書は紋切り型で地域特性を上手く捉えたものでないことは仕方のない事ではありますが、もうチョット地域目線で山梨独自の視点に立ったランドデザインは出来ないのかと始めたのが2040プロジェクトです。

2年に1度程度の報告書作成、発表シンポジウムやパネルディスカッションの開催、ステップ1ではこのプロジェクトの方向性と、リニア駅アクセス問題、ステップ2ではグリーンリノベーションによる甲府市中心街の活性化、ステップ3では甲府盆地のランドデザイン、そしてオリオンイーストの緑化事業、ステップ3.5としてぶどう緑化による甲府市中心街の活性化など、おかげさまで活動も10年を迎えようとしております。

どちらにしろ、私の建築やまちづくりに対しての多く部分は士会活動において培われたものでその意味では機会を与えてくれた士会とその仲間たちに感謝しております。そしてまた若い会員の方々が士会活動を通じてより良い経験を積むことが出来るように願っております。本当にありがとうございました。

国土交通大臣表彰を授与されて

都留支部

渡 辺 讓



このたび令和元年度建設事業関係功労者 国土交通大臣表彰を賜りました。多年、建築設計監理業に精励するとともに関係団体の役員として地方業界の発展に寄与したとして、さる7月10日、国土交通省においてその授与式が行われ出席してまいりました。

この賞は私一人の実績ではなく、ひとえに諸先輩方を含めた建築士会会員の皆様のお支えがあったからこそと思っております。山梨に戻って42年が経ちました。あの当時富士吉田の設計事務所にお世話になり、時として甲府まで出向き、建築士会などの活動に参加させていただきました。諸先生や建築を志す皆様との交流は大変刺激的であり、今でも忘れられない私の財産となっております。その後、地元都留市に事務所を構え、建築士会北富士支部会員に所属し、平成8年都留支部結成に係わり今に至っております。

さて、私の密かな(笑)楽しみとして建築探訪があります。神社仏閣から最新の建築まで気の向くままに出向き、見学(視察ではない)してきます。それが自身の建築作品の肥やしになっているかは甚だ疑問ではありますが、とにかくひたすら見て感激して帰ります。このことが所謂「アーキテクト」としての自負のかけらかもしれません。遠くにはなかなか行けませんが近場での楽しみをこれからも満喫したいと思っております。

今回の受賞をふまえ、郡内地域の建築文化・産業の向上に尽力することはもとより、山梨県建築士会の大いなる発展に奔走いたします。結びとなりますが、雨宮会長はじめ、会員諸兄、とりわけ都留支部の同胞、関係行政機関、そして事務局の方々に厚くお礼申し上げますと共に皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部

松 木 謙



この度、第62回建築士会全国大会において会長賞をいただき、山梨県建築士会雨宮会長をはじめ、各理事ならびに事務局、会員の皆さまに深く感謝申し上げます。

元号が新しい「令和」に変わり、大きな節目となった年に、このような名誉ある賞で表彰いただけましたことは、私にとって大変思い出となりました。

昨年9月21日、今年度の全国大会が行われた函館アリーナで、表彰者席に着席させていただいた瞬間に感じた空気、その厳粛さは、これまでに感じたことのない雰囲気、このような場所に自分がいるということに、感謝と感激をあらためて感じました。

私は、この建設業界へ従業し45年になります。その間、本当に多くの人々に出会い、助けられ、励ましていただき、今日に至ります。その集大成として、今回表彰いただきましたことは、喜びに堪えま

せん。同時に、本会において、また建設業界において、これまで私に何が出来たのかをあらためて自問自答した次第です。

山梨県建築士会へ入会以来、本当に多くの方と出会い、その1つ1つの出会いによってもたらされたご縁が、仕事に対する張り合いを私に与え、日々精進する事が出来ました。これまでご縁をいただき、お世話になった皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

今後も皆様にお力添えをいただき、自分の出来る限りの努力をつづけ、山梨県建築士会の発展と繁栄の為に、微力ながら尽力いたす所存です。

最後になりますが、山梨県建築士会のますますの発展と会員相互が力を合わせ、より良い建築士会となりますことを心より願って、お礼の言葉と致します。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて



甲府支部

望月 雄二

♪は～るばる来たぜ函館へ～～ さ～かまく波の～りこえて～♪

波ならぬ雲をのりこえて、空路で函館空港に到着したのは9月20日。午後3時からの連合会理事・全国会長合同会議に法制度委員として出席するため、兩宮会長に同行しての1日早い現地入りでした。翌日は函館アリーナで第62回建築士会全国大会「北海道大会」が開催されました。オープニングセレモニーは江差追分が披露され、長い歴史と独特の風土で歌い継がれてきた音調が、北の地ならではの雰囲気醸し出していました。この大会式典において栄誉ある日本建築士会連合会長表彰を受賞させて頂きましたことを心より感謝申し上げます。

表彰状には、「あなたは多年にわたり建築士制度の発展と社会公共の福祉増進とに多大の貢献をされました」とあります。建築士会に入会してから約30年ほど、皆様と共に活動した年月は確かに長くなってはき

ましたが、まだまだ建築士として道半ば。ただいたずらに歳を重ねてきたに過ぎない感があり、貢献など遠く及ばないと恐縮しております。

現在、我々建築業界には多くの問題が山積しており、とりわけ直面している難題は、後継者・担い手不足です。人口減少、少子高齢化が日本全体の社会的現象ではあるものの、それを理由に業界の衰退を見過ごしてはならないと思います。魅力ある業界、魅力ある建築士会を創生し、次代を担う若者たちが集う環境を整えていかなければなりません。今年度の北海道大会のテーマは『R e +明日(みらい)のまちに輝きを—』でありました。若い建築士が輝けるような明日となることを目指して精進・研鑽を積み、微力ながら活動を続けていくつもりです。

今後も、会員各位の更なるご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて



市川支部

斉藤 一恵

建築士会全国大会が今年度は北海道函館で開かれました。毎年一回全国47都道府県の建築士会会員が一堂に会し、式典、まちづくり交流プラザ、セッション等の諸行事がとりおこなわれるのですが、今年度は会が把握しているだけで約3000名の出席者とか。

そのような大層な式典で連合会長表彰を受けてまいりました。

正直申し上げてこのような表彰に値するような、なにか特別な活動をしたかどうかと、そちらの驚きと戸惑いが先であります。遠慮申し上げるべきであると心に思いつつ、ですが、この際函館を是非見てみたかったのであまり深く考えずに出発いたしました。

函館は交通機関が充実していてカード一枚で街中ぐるぐる廻ることが出来ます。最近の歴史にいきなり登場してきた街なのに歴史的文化遺産がたくさん

あり、地形はサンフランシスコのような坂道の街で、大変風情がありました。丘の上の旧家から臨む入り江の風景等まるで蝶々夫人のエリアが聞こえてきそうなロマンあふれる街です。ですが一般の通りはどこも同じく人口減少に伴う衰退でシャッターの閉まったままの店が多く、今後どのように展開していくのが大きな課題となっています。かつては沢山の人口を抱え、お金も沢山動いたのでしょうが。それは山梨県とても同じ。日本中の問題であります。

夜、路面電車に乗って移動しているとお隣さんもお向かいさんもみんな日本中から集まった建築士会の人達！お国自慢をしながら、一期一会の会話を楽しんでまいりました。いつかは山梨でも可能だろうか？自分達が主催するときがくるのだろうか？可能にしなければなりませんね。

第54回スポーツ大会に寄せて

塩山支部長 雨宮 眞司

令和最初の大会が10月19日に開催され、グラウンドゴルフで親睦を深めるはずでした。しかし、前日からの雨でグラウンドには水がたまり、天気は回復しつつあったのですが、止むなく中止といたしました。

急ぎょ塩山ふれあい館で開会式を行うことになりましたが、準備にバタついて集まった皆様にもご迷惑を掛けてしまいました。また、1週間前の台風被害で大変な中参加された支部もあり感謝申し上げます。

開会式では、建築士会雨宮会長の挨拶に続き、県土整備部総括技術審査監の渡井様、甲州市副市長芹沢様よりご祝辞をいただきました。引き続き、各支部代表によるジャンケン大会、全員参加によるビンゴ大会を行いました。短時間ではありましたが、楽しくゲームを行いました。賞品には、地元の甲州ワイン等を用意させ

て頂きました。これを機会にぜひ甲州市・山梨市にもお越し下さい。

塩山支部も少子高齢化の波に吞まれ、前回の大会担当時から10年間で30名ほど会員が減少しています。そんな中、多くの支部会員の協力により多少不安もありましたが大会開催の準備を整える事が出来ました。また準備を通して塩山支部内での親睦も深められたと思います。それだけに、出来ればグラウンドゴルフ大会で楽しめたらと残念でもあります。次回からは、大雨等の災害も無く、青空のもとでスポーツ大会が開催されることを期待しています。

結びになりますが、本会役員・事務局の皆様、各支部会員の皆様には御協力・御参加いただき、深く感謝申し上げます。



女性部会の活動報告 — 女性部会の旅 — 女性部会 河西 眞理子

女性部会の旅は、いつも楽しい。

本会の全国大会、全国建築士女性委員会(全建女)の大会、山梨再発見の旅等々いつも、幸せな気持ちで帰途につく。

まず企画がいい、時間配分もいい、そしてしっかり勉強もする。

最初の旅は、20数年前の伊香保温泉方面の旅で、当時6歳の娘も参加した。この旅は、企画する側だったのであまりゆとりはなかったが、木造3階建の旅館で今風に言えば後期高齢者の仲居さんばかりで、みんなで布団を運ぶのを手伝った。名所の階段も改修するまで、風情があった。

それから、京都、島根、いばらき、金沢、奈良、そして今年の函館大会と、平成から令和へと時代が動く中で、各地の素晴らしさを再発見する旅をさせてもらった。

震災復興、空き家対策等々の分科会にも参加し、他県の仲間とも親しく話し合うことができた。

全建女京都大会では、町家をリノベーションした宿に宿泊して、自由時間には、各々好みの寺社仏閣を散策し、雪の古都を満喫した。

本会いばらき大会では、大会参加後、短時間ではあったが、笠間焼にも挑戦した。

そして、山梨再発見の旅では、山梨の様々な文化の再発見もした。

早川町の赤沢宿の石畳み、須玉町津金地区の饅(こて)絵、北杜市の神社の能舞台等々、そしていつも美味しいランチ。

皆さん、是非、女性部会の旅に参加してみてください。(もちろん子連れOK) きっと、建築という仕事をもっともっと好きになります。

菊の香や旅の行く手の其処此処に 眞理子



第3回 山梨県建築士の集い 実行委員会

実行委員長 長 坂 治

この数年山梨県という括りで建築士が集い、お互いの活動報告や、新人建築士との交流、地域の建築士に必要とされることの学びの機会と、懇親の機会からお互いを知り交流を深め新たな誘発を期待した取り組みです。参加は建築士に関する人であればどなたも関わることができます。

令和元年度の集いとなる第3回は、石和支部及び中巨摩支部の青年部を中心に、実行委員会にて場づくりやプログラムのブラッシュアップを進めていきます。今からでも関わっていただき、山梨の建築士に関する次の一歩を踏み出していただけたらと思います。

詳しくは改めての案内になりますが、下記にて実施予定です。

気になる方は実行委員長(080-5401-9193 seinen@ykenchikushi.org)まで

連絡お待ちしております。はじめの一歩、踏み出してみませんか？

日時 令和2年2月22日13時から17時半 その後懇親会

場所 石和温泉郷旅館 糸柳

内容 地域実践活動報告・建築士免許交付式・山梨県景観アドバイザー菅原大輔氏講演会・懇親会
以上

青年部会の活動報告

「建築士会全国大会北海道大会」に参加して

青年部会 遠 藤 恭 範

昨年9月21日、函館アリーナで開催された第62回建築士全国大会「北海道大会」へ参加をしました。私が参加したセッションは、青年委員会セッション「地域実践活動発表会」でした。参加の動機としては、山梨県建築士会青年部が主体となり開催している「山梨県建築士の集い」の中で、地域実践活動の発表に関わったことで、全国で展開している青年建築士がどのような活動をしているのか興味を強く持つようになったからです。建築士のスキルアップに繋がる事業や、防災・福祉など地域コミュニティを考える事業が発表される中で、私が素晴らしいと感じた活動は、長崎県の建築士会と地元商店主が、まちなみ整備によるまちの活性化を目指し、商店街組合・周辺自治会・近隣住民・大学・市民団体とのワークショップを経て、市へ公園整備の計画提案をした結果、公園整備計画が実施され、令和元年度に整備工事が完了するという内容の発表でした。多様な方々からの様々な意見を聞きながら舵取りを行い、任務遂行する様は、建築士の職能の真骨頂であります。我が町も様々な問題を抱えていることを認識していますので、同士のこのような発表からは良い刺激を受けることが出来ました。その余韻が残る10月10日、甲府支部青年部では、甲府工業高校の建築科の生徒を対象に、甲府駅南口に建設中のホ

テルにて現場見学会を開催しました。未来の建築士達に、「将来我々と共に山梨を造って行こう」というメッセージを届けるための活動です。生徒達には建設中の高層建物を上層階から下層階へ、躯体工事から仕上げ工事へ進んで行く工程を見学していただきました。生徒達は爛々と現場を歩き、代表して感想を述べてくれた生徒から発せられたのは「現場監督になりたい。」という力強い言葉でした。遠くない将来、この生徒達と、まちなみを造っていけることを楽しみに建築士会の活動をつづけて参りたいと思います。



ブラ散歩@ 葦崎

和田之男

葦崎駅のプラットフォームに降り立つと、冷たい雨が降っていた。北側には、明るい広場や大きな建物が建っているが、南側はなんとなく暗い感じがする。

さて街歩きを始めようか。国道沿いの建物は、暗く閉ざされたようで、肌寒い雨が一層寂しさを感じさせる。少し歩き始めると、明るい暖かな光。闇の中に大きな建物が見えてきた。

何があるのだろうかと思っていると、背後から学生二人が、建物内部へ消えていった。私も少し後で登っていくと、2階に雑貨屋さんがある。しかし、学生はどこにも居ない。不思議に思い、そのお店の人に「今学生が登ってきたと思うが」と尋ねると「多分5階の自由室に行ったのでは」という返事。ふーん、何やら面白いような建物だな。3階は自由な展示室。4階は建築設計事務所か。では5階に登ってみよう。ほー、大きな部屋に机

椅子が無造作においてあり、先程の学生らしい二人が、机を挟んで、何か一生懸命話をしている。下から丹沢さんがのぼってきた。「君たち話を聞いてもいい?」「いつもこの部屋を使っているのかなあ」丹沢さんが早速聞き取りを始めた。では、おまかせして、私は少し町探索に。私がもう1つ気になっていたアメリカヤの道路向かいの路地に向かった。アメリカヤ横丁を見ずして葦崎を語れない、ってちょっと大げさかなあ。空き家を改修したお店が数件あるが、まだ時間が早いのか閉まっている。裏にも何かあるようだ。露天の大きなベンチが一つ。夏はここでビールもいいだろうな。古びた外階段を登ると、そこにもお店、開店が楽しみだ。

ほろ酔い気分でプラットフォームに立つ。帰りの電車を待ちながら、先ほどの横丁周辺を見ると、別の世界が広がっているような葦崎がそこにあった。

丹沢浩己

葦崎駅を降りて徒歩3分。駅の西側にある駅前中央通りは、店舗を中心とした木造2階建ての建物が昭和の時代を色濃く残して軒を連ねている。昭和の時代には賑わいを見せていたであろうこの商店街も、シャッターが降りた建物が目立ち、一抹の寂しさを感じてしまう。

そのような中で、ひと際目を引くのが、「アメリカヤ」である。鉄筋コンクリート造5階建ての外観は、中央通りに面して連窓サッシュが設けられていて、温かな電球色の照明が建物を浮び上がらせている。柔らかな竹まいが放つ存在感は人を引き込む魅力を感じる。

内部は板貼りの床に白いペンキ仕上の壁、天井はコンクリート躯体現しのうえにペンキ塗りといったところが、おもな内装仕上げとなっている。今となっては手に入れることが困難であろう建設当時のままのステールのサッシュやクレセントがとても良い。裸電球の

明かり、板貼りの足音、磨きガラスの入った建具などがゆっくりとした時間を感じさせ、とても居心地がいい。

この日も中学生や小学生が5階のコミュニティスペースでおしゃべりをやゲームをして、ゆったりとした時間の中でひと時を過ごしていた。普段も地元の中学生や高校生がよく利用しているとのことだった。

次に、アメリカヤの前にある築70年の長屋をリノベーションしたアメリカヤ横丁に行ってみる。外観も内観も昭和の時代の雰囲気で溢れている。

5件の飲食店があり、せっかくなので「名古屋グルメの店」と「ラーメン酒場」の2件で食事。レトロな雰囲気の店内にはチャップリンの無声映画が映し出され、落ち着いた雰囲気ですりや会話を愉しむことができる。かつて行われていた井戸端会議は、令和の時代に飲食店でコミュニケーションという形で新たに生まれ変わったと感じた。



名取あき子

葦崎とは……江戸時代は幕府の官道として整備された宿場町で、一ツ橋家の陣屋もあった。

甲州街道・駿信往還・佐久往還の分岐点もあり、富士川舟運の終着地ということで各所から多くの物資が集まり賑わった。しかし、鉄道が明治36年12月に葦崎まで、翌37年12月にはこれ以西が開通すると物流が変わり衰退した。また、鉄道は急こう配のためスイッチバック式となり、駅と町中心部が分断されてしまった。その後、鉄道の複線化により現在の街並みが形成される。今見られるガード下の道・船山橋から清里方

面の道・青坂のトンネルそして国道20号の土手は昭和34年の台風7号の水害以降に整備された新しい道である。古い道・新しい道で建物がどのように変化して使われるか見守っていききたい。

追伸、かつて葦崎宿は鋸歯状地割が行われました。それは、馬の往来が多く「馬糞宿」と呼ばれるくらいでした。埃が強い北風で家の中に吹き込むのを避け、多量の物資を通行の妨げにならないよう取り扱う空地を設けた。現在は本町通り整備のためほとんど見られない。

長坂 治

まちの循環を探すことに関心がある。今回ぶらりしたニコリ(大型商店を市が再活用した複合施設)、アメリカヤ(民間のカフェ・オフィス・コワーキングスペースなどの複合施設)、アメリカヤ横丁からの商店街、葦崎駅周辺では目に見える循環を感じた。

ニコリには世代の切れ目がないコミュニティ育成の場が築かれていた。'67にスタートするアメリカヤの歴史に触れると、'18に生まれ変わった構成には1階か

ら屋上周辺地域までストーリーが描かれていて、アメリカヤ横丁につながり、隣地ではゲストハウスなども始まったようだ。

魅力ある場所に人が訪れ、語らい滞在する。地域の人もイベント会場やオフィスなど、ニコリとアメリカヤも程よくつながり、葦崎駅周辺は滞在したくなる度合いが高まっている。

中澤幸子

葦崎市内にある「アメリカヤ」が2018年にリノベーションで再生され、15年ぶりに眠りから覚めた。この建物は1967年にハイカラな商業施設として誕生し、葦崎の名物ビルとして一際注目を浴びていたらしい。このビルの近くに「アメリカヤ横丁」が出現し面白いまちづくりがされているとの情報から、昨年の11月22日に編集委員会でブラ散歩@葦崎を企画した。

この日は雪でも降って来そうな底冷えになり、完全冬対応の身支度で16時の集合場所へ中央線に向かう。久し振りの車窓からの眺めを楽しんでいるとアツという間に葦崎駅に到着。駅よりメイン道路に向かうと、夕闇にクリスマスツリーのごとくオレンジ色の光に包まれた建物が目に飛び込む。51年目に再生され、息を吹き込まれたビルが街を照らしていた。周辺には楽器

店・葡萄酒舗・おにぎりやさんなどレトロな雰囲気のある建物が並んでいる。その当時の「アメリカヤ」人気商品、アイスボンボンキャンディーとなった敷地内の湧水も健在であり、建物も往時を感じる何とも言えない温かさを感じる中に、个性的でオシャレなテナントが人々を迎え入れてくれる。しっとりと大人の雰囲気を感ずる心地良さがあった。

道を挟んだ路地には、築70年の木造長屋を再生した「アメリカヤ横丁」が出現。一つの建物のリノベーションから街が変わって行き、个性的なまちづくりへと変貌する姿を期待し、応援したいと思う。電車を利用して葦崎へお出掛け、そしてアメリカヤさんでお買い物をし、帰りは美味しい食事とお酒を楽しみ、終電に間に合うように帰路に着く。皆さん、このコースは如何でしょうか。



県からのお知らせ

山梨県県土整備部建築住宅課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenchikujutaku/index.html>

— 令和元年度山梨県建築文化賞 —

山梨県建築文化賞推進協議会

「峰々を見渡す家」、「ふふ河口湖」が建築文化賞に選ばれました

本年度の山梨県建築文化賞への応募（住宅建築13点、一般建築物等17点、公共建築物等12点、計42点）の中から、建築文化賞には2点が、また建築文化奨励賞には4点が選出されました。

昨年11月29日にベルクラシック甲府において表彰式が行われ、長崎知事から受賞作品の建築主、設計者、施工者に表彰状と記念品が贈られました。同日には、今年度で山梨県建築文化賞が30周年となることを記念して、今までの受賞作品とともに賞のあゆみを振り返る記念のシンポジウムを行いました。

これまでの受賞作品も含め、建築住宅課のホームページに掲載されていますので、是非ご覧下さい。建築士会ホームページからもアクセスできます。

今後とも、本事業の推進に建築士皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

【令和元年度 山梨県建築文化賞等表彰建築物一覧表】

(敬称略)

賞の名称	部門	建築物の名称	所在地	建築物の概要		建築主	設計者	施工者
				用途	構造・規模			
建築文化賞	住宅建築	峰々を見渡す家	北杜市	住宅	木造 2階建 167.70㎡	個人住宅のため、非公表	(株)ON Time Design Office	(株)長田工務店
	一般建築物等	ふふ河口湖	富士河口湖町	旅館	鉄骨造・鉄筋コンクリート造 4階建 4,669.52㎡	ヒューリック(株)	(株)竹中工務店 東京本店設計部、TKN・ARCHITECT(デザイン統括)	(株)竹中工務店 東京本店
建築文化奨励賞	一般建築物等	株式会社正直堂 ワークスタジオ レアール	中央市	事務所	鉄骨造 2階建 637.74㎡	(株)正直堂	(株)早野組 一級建築士事務所	(株)早野組
	公共建築物等	甲府市武田氏館跡歴史館 (旧堀田家住宅)	甲府市	展示施設	木造 平屋建 主屋 175.74㎡ 他	甲府市	一級建築士事務所 (有)アルケドアティス	国際建設(株)
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	グレイブ・ゲイブルズ	甲州市	住宅	木造 2階建 165.29㎡	個人住宅のため、非公表	(有)アトリエ・ワン	(株)雨宮工務店
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	山中湖村平野ゆいの広場ひらり (ロータリー工区・南工区)	山中湖村	バス待合所/集会場	木造 平屋建 バス待合所 105.83㎡/ 集会場 95.18㎡	富士急行(株)、山中湖村	SUGAWARADAISUKE 建築事務所(株)、(株)馬場設計、(株)イー・エー・ユー、(株)文化財保存計画協会	富士急建設(株)

【山梨県建築文化賞の応募・受賞件数（第1回～第30回）】

住宅建築の部門			一般建築物等の部門			公共建築物等の部門			良好なまちなみ景観を形成している建築物等の部門				計			
文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	部門別受賞数	応募数	文化賞	奨励賞	特別賞	応募数
11	34	900	18	33	866	18	30	730	6	40	住宅15 一般27 公共4	16	53	137	1	2,512
45			51			48			46				191			

※・第1回、第2回は、一般建築物等、公共建築物等、良好なまちなみ景観を形成している建築物等の3部門で募集。(住宅建築は一般建築物等に含まれた)

・第3回からは住宅建築、一般建築物等、公共建築物等の3部門で募集。良好なまちなみ景観を形成している建築物等については3部門から賞の主旨にかなうものを審査委員会の審査により選出。

・第17回からは、国、県の建築物についても表彰対象となる。

※ 山梨県建築文化賞推進協議会（構成団体）

(一社)山梨県建設業協会、(一社)山梨県建築士会、(一社)山梨県建築設計協会、(一社)山梨県建築士事務所協会、(公社)山梨県建設技術センター、山梨県